

第1回小牧市情報教育 ICT 推進委員会 会議録

1 会議の名称

第1回小牧市情報教育 ICT 推進委員会

2 開催日時

令和3年6月24日（木）午後3時から4時30分まで

3 開催場所

小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

4 報告及び議事

○報告

(1) 小牧市の ICT 教育について

○議事

(1) 小牧市教育振興基本計画の見直しについて

(2) 小牧市学校教育 ICT 推進計画の見直しについて

○その他

(1) 長野県 ICT 教育推進センター等の取り組みについて（村松委員長から情報提供）

5 公開又は非公開の別

公開

6 出席者

(1) 委員

氏名	職名
村松 浩幸	信州大学教育学部 技術教育グループ 附属次世代型学び研究開発センター長
牧野 かおる	小牧市小中学校PTA連絡協議会会長
林 文通	岩崎中学校校長
梶田 光俊	大城小学校校長
水野 一哉	小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 (篠岡中学校教頭)
栗木 健二	小牧市IT活用研究委員会委員 (小牧原小学校教頭)
岡田 紘司	小牧市IT活用研究委員会委員 (味岡小学校教務主任)
高堀 文男	小牧市IT活用研究委員会委員 (北里小学校校務主任)
伊藤 崇	小牧市コンピュータ整備検討委員会委員 (応時中学校教諭)
舟橋 朋昭	行政改革課長

(2) 事務局

氏名	職名
伊藤 武志	教育部長
石川 徹	教育部次長
鈴木 久代	学校教育課 指導主事
櫻井 晃生	学校教育 ICT 推進室長
塚本 真也	学校教育 ICT 推進室 主幹
上原 みよ子	学校教育 ICT 推進室 ICT 推進係長
加藤 千明	学校教育 ICT 推進室 ICT 推進係 主査

(3) その他

氏 名	職 名
滝田 理	株式会社EDUCOM
小森 弘毅	株式会社EDUCOM
亀野 隼平	株式会社EDUCOM
堂尾 知則	株式会社フューチャーイン

7 傍聴者 0名

8 会議資料

- 資料 1 - 1 小牧市情報教育 ICT 推進委員会設置要綱
- 資料 1 - 2 委員名簿
- 資料 2 令和 3 年度 ICT 環境
- 資料 3 モデル校事業の推進にかかるアンケート結果報告書～2021.2 実施～
- 資料 4 小牧市教育振興基本計画（抜粋）（改正案）
- 資料 5 小牧市学校教育 ICT 推進計画の見直しについて
- 参考 令和 3 年度 ICT 推進に係る検討体制
- 別冊 1 小牧市教育振興基本計画
- 別冊 2 - 1 小牧市学校教育 ICT 推進計画
- 別冊 2 - 2 小牧市学校教育 ICT 推進計画（追補版）
- 別冊 3 令和 2 年度 ICT 授業実践事例集

9 会議の結果及び経過

（事務局：櫻井室長）

それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第 1 回小牧市情報教育 ICT 推進委員会を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めます学校教育 ICT 推進室長の櫻井でございます。よろしくお願いいたします。

今回は、県外の村松委員と Teams を活用して、オンラインで接続した形で開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

本委員会は公開となっておりますが、本日の傍聴者はありません。

会の開催にあたり、伊藤部長より、ご挨拶を申し上げます。

(事務局：伊藤部長)

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員に就任いただきましたことに対しましても、重ねてお礼申し上げます。

学校のほうですが、今、学校訪問という形で、私ども教育委員会が出かけて、各小中学校の学校の様子を見せていただいています。授業によってタブレット端末を使用しており、こどもたちは手慣れた様子で端末を操作していました。1人1台端末を導入してから日が浅いですが、想定よりも早く活用が進んでいるのではないかと感じました。

今年度第1回目の委員会ということで、新たに就任された委員もいらっしゃいますので、まず、本委員会について簡単に説明させていただきます。

本市は、ICT 教育に関して、参考資料の「体制図」のとおり、4つの委員会を設置しております。

参考資料に記載しております本委員会は、平成15年に小中学校の情報教育に係る ICT 施策を推進するために設置され、これまで学校における ICT の推進や整備に関する様々な議題について、ご意見をいただけてきました。

今年度は、今後の学校における ICT の整備や活用に関する基本方針となる「小牧市学校教育 ICT 推進計画」の計画期間の最終年度となることから、次期計画案についてご意見をいただきます。

日程としましては、本日と1月下旬の2回の開催を予定しております。開催回数は少ないですが、委員の皆様には、その中でも忌憚ないご意見を聞かせていただきたい

と考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

簡単ですが、挨拶にかえたいと思います。本日はよろしくお願ひいたします

(事務局：櫻井室長)

ここで、本来であれば委員の皆様と事務局職員等の紹介をさせていただくところではありますが、時間の都合上、誠に申し訳ありませんが、資料2の委員名簿の配付をもちまして、委員及び事務局の紹介とさせていただきたいと思ひます。

続きまして、次第の2、委員長及び副委員長の選任でございますが、本委員会の委員長及び副委員長につきましては、資料1、小牧市情報教育ICT推進委員会設置要綱第3条第4項の規定により、委員の互選をもって定めるとあります。

これに基づきまして、委員長・副委員長について、どなたか立候補あるいはご推薦いただけないでしょうか。

(栗木委員)

今年度、教育振興基本計画等の改定ということもあり、委員会の連続性等も考えて、前年度に引き続き、村松先生を委員長、梶田先生を副委員長に推薦します。

(事務局：櫻井室長)

ただ今、栗木委員より、委員長に村松委員を、副委員長に、梶田委員を推薦するというご発言がありました。お諮りします。村松委員を委員長、梶田委員を副委員長とすることに異議ありませんか。

～異議なし～

(事務局：櫻井室長)

ご異議もないようでありますので、村松委員が委員長に、梶田委員が副委員長に決定

されました。それでは、村松委員長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

(村松委員長)

ただいま委員長に選出いただいた信州大学の村松です。本来、そちらにお伺いしないといけないのですが、前回に続き、オンラインでの参加になりました。過日、梶田副委員長の大城小学校のオンラインの授業研究に参加させていただきました。オンラインの開催形式が普通になってきたと感じており、小牧市の一步進んだ活用が垣間見えます。

今日は限られた時間ですが先生方に忌憚のない意見をいただきながら、小牧市の ICT 活用を更に進めていけるようにお願いします。

(事務局：櫻井室長)

ありがとうございました。それでは、ここからの進行につきましては、委員長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいいたします。

(村松委員長)

はじめに、1点進行上のお願いをさせていただきます。本日の審議終了時間は、午後4時30分頃を予定しています。なるべく多くの方にご発言いただきたいため、ご意見は1回につき、2点まででお願いします。いつもですと、ご意見等については挙手していただき、お名前をお呼びした後、発言いただくのですが、今日はモニタ越しですので、梶田副委員長に発言者の指名等をお願いいたします。

それではお手元の次第に基づいて会議を進めます。

次第の3、報告に入ります。報告の1、小牧市のICT教育について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原係長)

それでは、次第の3（1）小牧市のICT教育について、説明させていただきます。

まず、お手元の別冊2-1の「小牧市学校教育ICT推進計画」につきましては、平成30年度に本委員会でご意見をいただきまして、平成31年2月に策定・公表されたものでございます。

その後、本市ではこの計画に基づき、ICT教育を推進しておりましたが、昨年度、国のGIGAスクール構想の大幅な前倒しにより、児童生徒1人1台端末等を前倒しで整備することとなりました。別冊2-2は、その前倒しに関係する部分のみ、「第6章GIGAスクール構想の実現に向けて」として追補したものとなります。

資料2をご覧ください。こちらは、令和3年度のICT環境、機器とソフトウェアについて簡単に表と写真にまとめたものです。児童生徒1人1台の端末をはじめ、普通教室等には電子黒板機能付きのプロジェクタと実物投影機を整備し、普通教室・運動場・体育館では無線LANを整備しております。また、教員や児童生徒のICT機器の操作等を支援するICT支援員が全校、月4回程度の訪問ができる体制をとっております。

ソフトウェアにつきましては、基本のオフィス系をはじめ、授業支援ソフトウェア、デジタルドリル、情報モラル教材、プログラミング教材、指導者用のデジタル教科書など各種整備しております。

資料3の1ページをご覧ください。本市においては、味岡小・大城小・味岡中・光ヶ丘中の4校をパイオニア校、いわば先進校としまして、タブレットPCの活用など授業実践に取り組んでいただいております。このアンケートは、パイオニア校4校で児童生徒、保護者、教員の意識調査として令和3年2月に実施した結果をとりまとめ、公表しているものであります。

主な内容について簡単に説明いたします。4ページをご覧ください。②コンピュータやタブレットを使った授業はわかりやすいですかの質問に対して、「はい」と回答した児童生徒は81%であり、括弧内に示した前回調査から微増しております。

続いて、9ページの質問⑩コンピュータやタブレットを使った授業では、自分の考

えを深めたり、広めたりしやすいですかの質問に対して「はい」と回答した児童生徒は66%であり、前回調査より増加しております。

その下、⑫のインターネットやメール、SNSなどを利用するときのルールやマナーについて気を付けるようにしていますかの質問に対して、98%の児童生徒が「はい」と回答しております。

11 ページをご覧ください。⑩1人1台タブレットが使えるようになってよかったことについては、「友だちと資料や意見を共有したり、自分の意見を整理して発表できた」「授業でわからないことをなど、必要な情報を調べることができる」といった回答が多くありました。

続いて、保護者につきまして、17 ページ、⑦ICT 教育で学校に期待する点について、2 番のわかりやすい授業に続き、7 番のインターネットを安全に利用したり、犯罪から身を守る情報セキュリティに対する意識の向上が多く回答されました。

また、18 ページの⑧ICT 教育について不安な点については、2 番の視力や姿勢など、身体への悪影響が前回調査に引き続き一番多く回答されました。

21 ページをご覧ください。⑫タブレットを家に持ち帰って学習することになった場合、期待する点、不安な点について、期待する点としては3 番の学習意欲の向上、不安な点としては、8 番の登下校中や家でのタブレットの故障や紛失が挙げられました。

続いて、24 ページをご覧ください。教員についてです。①授業のなかで ICT 機器を活用したいと思う教員は99%と非常に高い割合を示しています。

27 ページ、⑥ICT 機器を利用したときに、困ったり不便だと感じたことについて、3 番の利用している途中で機器やインターネットが動かなくなった、4 番の機器の不具合に対応できなかったという回答が多くありました。

また、29 ページ、⑦ICT 機器を利用しにくいと感じる理由について、7 番のソフトウェアやコンテンツをどのように活用するとよいかわからない、4 番の導入されているソフトウェアの使い方がわからないが多く回答されました。

31 ページをご覧ください。⑧の情報活用能力について、⑨情報を正しく安全に使用

することの大切さについて、⑩の授業に対する興味・関心度、⑪の学びの深まりについては、数値の高い・低いはありますが、前々回、前回調査と比較し、いずれも増加傾向にあります。

34 ページをご覧ください。学校を巡回訪問し、教員等をサポートする ICT 支援員についてです。⑮支援してもらってよかったこととして、4 番の授業における機器等の紹介、活用方法の助言・提案や、11 番の機器トラブルの対応、7 番の授業中のサポートが多く回答されています。

事務局といたしましては、これらの意識調査の数値の変化を引き続き注視しつつ、学校と協力しまして、今後も ICT 教育の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

以上で、簡単ではありますが、小牧市の ICT 教育について、現状説明とさせていただきます。

(村松委員長)

それでは、ご質問等ありましたら、挙手をお願いします。

(村松委員長)

アンケート結果は貴重なデータだと思います。1 点質問ですが、アンケート結果は保護者や地域の方が見られるように Web で公開していますか。

(事務局：上原係長)

PDF 形式で市のホームページに公開していますので、幅広くご覧いただける状況です。

(村松委員長)

先生方のみだけでなく保護者も確認できるのはいいと思います。

(村松委員長)

アンケートの回答は、児童生徒も教員もフォームを使用して端末から行っているのでしょうか。

(事務局：上原係長)

アンケートの回答方法につきましては、市が導入している Office365 の Forms の機能を使用し、児童生徒はタブレットで、教員についても端末から回答をいただいています。

(村松委員長)

ということは、教育委員会としても集計作業が短縮されたのですね。

(事務局：上原係長)

はい。

(村松委員長)

せっかくですので、アンケートに回答していただいた味岡小学校の岡田委員、大城小学校の梶田副委員長からお気づきの点などがございましたらお願いします。

(岡田委員)

27 ページの ICT 機器を利用したときに困ったり、不便に感じたことということで、3 番の利用している途中で機器やインターネットが動かなくなったというのが 70%と高いですが、授業を見ていて、困っているという感じはなく、そんなに高い印象ではありません。校内 LAN の整備をしていただいたので、スムーズに活用できていると思います。29 ページの 7 番にイメージが湧かないという項目がありましたが、先生も得手不得手あります。本校では、ICT 機器の操作に長けた先生を中心にベテランの先生も

活用できるようになってきています。ソフトウェアの活用方法も情報交換しながら活用できていると感じています。

(梶田副委員長)

大城小の先生たちの様子は、自分が使いたいところで使っています。授業の中で、ここはこどもたちに調べさせたいなとか、例えば体育の授業で自分の体の動きを確認して、更に向上させたい場面など、上手に使っています。岡田先生が言われたように、先生の意識アンケートの中で困ったという回答には、先生が持っている不安感みたいなものが現れていると思います。トラブルで授業がとまってしまったということよりも、不安に思っているから勇気を持ってやってみるところまで行かないのではないかと思います。

保護者については、こどもたちがサクサク使っており、保護者がついていけないので、本当に大丈夫でしょうかという不安を感じている方が多いという印象です。

(村松委員長)

調査対象でなかった学校の先生方にも気づいた点や感想をお願いします。

(高堀委員)

本校でもいろんな機器が導入されて、変化が大きいのですが、推進担当が中心になって、積極的に使う場面を相談したり、学年に話を下して取り組んでいます。教員も年齢が様々ですが、若手からベテランまで相談しながら進めており、抵抗があるという事はあまり感じていません。

(伊藤委員)

タブレットが入ってくるときは正直不安感がなかったとは言えません。ただ、実際に使い出してみると、不安感が薄れていき、こどもたちタブレットを使いたいだとか、

意欲的に授業に取り組む姿が見えてきています。中学校なので、教科ごとに使用方法は異なりますが、それぞれの教科にあわせて実践し、使いながら効果を確認して進めている状況です。

(村松委員長)

アンケートに出てきているように、特に保護者は不安感が多いようです。このデータをうまく活用できるといいと思います。例えば、こどもの結果で6ページのキーボード入力については、7割近くがスムーズにできています。また、8ページのグループワークに進んで参加できるのが小学校よりも中学校の方が割合が高くなっており、中学校の協働学習も進んでいると思います。逆に、ネガティブな回答、「いいえ」、「わからない」、「発表はしたくない」、「分かりやすく伝えるのはちょっと」というこどもは1割ぐらいいます。こういうこどもたちは、どこがひっかかっているのかをクリティカルに捉えてみるといいかもしれません。

一つの方法としてクロス集計をかけてみてはどうでしょうか。ある項目で「はい」、「いいえ」と回答しているこどもが他の項目でどういう回答をしているのか、楽しいと答えているこどもたちは実際に学習状況はどうだろうかなど、単純集計だけでなく、いくつかの観点で集計すると、もう一段見えてくるものがあると思います。

先進的な学校では、良い結果だけでなく、上手くいっていない結果は何か。他の学校でも課題になってくることなので、そののところが見えてくるようにデータを更に活用してはどうでしょうか。

保護者の調査については、18ページのその他の意見などで不安な点が記載されています。この調査自体は、調査用紙に回答しているということでもいいでしょうか。

(事務局：上原係長)

保護者に対するアンケートにつきましては、文書や保護者メールを使用してFormsのURLもしくはQRコードを送付して、スマートフォンやパソコンから回答していただ

いています。

(村松委員長)

保護者に対するアンケートは、こどもや先生のアンケート結果を上手に活用して、A4の裏表で構いませんが、学校での取組みを伝えた上で回答をしてもらうと反応が相当変わってくると思います。今は、こどもから聞いた話や家で使っている様子などから判断していると思いますが、授業でのこどもの反応、様子などを保護者に伝えた上で回答してもらうと変わってくると思います。不安というのは、全体の様子が見えなかったり、何を目指しているのかが十分伝わっていなかったりすることによると思うので、そののところを上手く伝える工夫ができると、保護者の不安が取り除けて、応援側の声が大きくなると思います。手はかかりますが、保護者の理解は非常に大きな力になるので、こどもや先生のアンケート結果を上手に使う工夫ができるといいと思います。

先生方のアンケート結果についても、多くの学校でこれから展開していくときに何がポイントになるのか詳細な分析をしてみるといいと思います。私が感心したのは、26ページの校内で相談できる体制について、100%近くあると回答しています。他の先生とのコミュニケーションも90%の先生方がやっていることは大きいです。こどもだけでなく、先生方が協働的に支え合う体制ができると活用がスムーズに進むと思います。その辺のコツがあると思いますが、校内の体制で工夫されたことがあれば共有していただけますか。

(岡田委員)

味岡小学校では、導入前に何度か研修をしましたが、その後は特別なことはしていません。授業後、職員室で先生同士が自由に聞き合ってレベルアップしています。教務主任として、そういう部分はいいなと自分も感じています。苦手だった先生も聞くことによってどんどん活用が広まっているのを肌で感じているので、このまま進めて

いきたいと思います。

(梶田副委員長)

大城小学校は特に何かしかけている訳ではありません。味岡小も一緒ですが、パイオニア校のため1人1実践の報告をしなければいけません。このノルマは結構苦しいので、自分がやる時はどうしようかとみんなと相談しています。やらざるを得ないということからお互いに聴き合えるという感覚もありますし、これまで、小牧市は全小中学校で授業研究をやっているの、その中の雰囲気でもあるかなと感じます。

(村松委員長)

岡田委員が言われたように研修をするだけでなく、放課後に先生方が情報交換できるだとか、梶田副委員長が言われたような負荷やタスクがあって上手に回るしかけなど、他校に広めていただきたいです。その背景に、これまで小牧市の積み上げてきた授業研究、校内での取組みの蓄積があると感じました。

この件につきまして、他にご意見があればお願いします。

(林委員)

今年4月に思い切って組織を刷新し、若い世代、20～30代前半をキャップにしてみました。ICT担当も若い先生をキャップにしたら若い先生が非常に聞きやすいということもあり、思ったより短時間で広まっていくという効果がありました。

基本、各校、校務主任など役職者がキャップになる可能性が高いですが、思い切って若手の人材を投入するのもいいと思いました。

(村松委員長)

今の発言を受けてこういう取組みをしてはどうかという提案はありますか。

(水野委員)

仕組みではありませんが、中学生はいろんな先生の授業を受けます。生徒にプリントを配ったら、次回からタブレットを持たせてロイロで配ってくださいと言われてました。そうなったら詳しい先生にやり方を聞くしかありません。生徒からその方が分かりやすいというリクエストを受けて、慌てて覚えようとする先生が出てきています。こどもに期待されたら応えたいと思うので、そういう動きが出てくるといいなと思います。

(村松委員長)

生徒が進みつつあり、それに先生が押されるという構図ですね。若い先生の活躍とともに、こどもたち自身がどんどん活躍して学校が活性化していくのはいい循環だと思います。

その他どうでしょうか。

(栗木委員)

タブレット持ち帰りの検証作業の依頼が教育委員会からありました。授業の中でこどもたちが使えるようにしておかないと持ち帰っても操作できないので、ICT 支援員に協力してもらい操作方法等をこどもに教えてもらいました。同時に先生たちにも操作方法の説明をお願いしました。先生方も一度使用してみると、おもしろく使えるみたいで、ロイロで植物を撮影するなど、少しずつ活用の裾野が広がっていると感じています。

(村松委員長)

先生方が良さを実感して活用が進んでいくということですね。

その他どうでしょうか。

(伊藤委員)

特に何かをとという訳ではなく、ちょっとした工夫をして、こんな機能があった、こんなことができたという話を教科を跨いでできています。中学校は、教科ごとに話す機会が多いですが、教科を超えて話をする機会は少ないので、ICT はすごいなと感じています。職員室で話す機会がより増えたと思っています。若い先生方を中心に話し合っています。先日もロイロのアンケート機能について、簡単にできて集計までできるということで話題になっていました。便利な機能が多いので、色々な機能を先生方が知っていくことで新しい使い方が出てきて、教科を超えて広がっていくのかなと思っています。

(村松委員長)

中学校の大きな課題である教科を超えてどうやって連携していくのかについて示唆をいただいたと思います。

その他、よろしいでしょうか。アンケート調査をきっかけに今後の展開につながる様々な示唆が得られたと思いますので、市内に広めていただきたいと思います。

(村松委員長)

続きまして、次第の4 議事に入ります。議題の1、小牧市教育振興基本計画の見直しについて、事務局より説明をいただきます。

(事務局：塚本主幹)

それでは、小牧市教育振興基本計画の見直しについて、説明させていただきます。

お手元の別冊1「小牧市教育振興基本計画」の4ページをご覧ください。平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されたことに伴い、市長と教育委員会が教育行政に関する事項について議論をする場として「総合教育会議」を設置するとともに、その地域の実情に応じた、教育、学術及び文化振興に関する総合的な施

策の大綱を定めることとされました。

本市においても、保護者や教員との意見交換など、多くの議論を経て、平成29年3月に、この小牧市教育大綱と小牧市教育振興基本計画を策定し、様々な施策を実施してきたところであります。

今年度は、計画策定から5年目にあたり、変化する社会情勢等に対応するため、中間見直しを実施いたします。見直しの主な内容としては、計画に定めている具体的な取組みの修正、新規追加、計画指標の見直しなどです。

見直しの流れとしましては、施策の各担当課が所管部分の見直しについて関係の審議会・委員会にてご意見をいただき策定した改定案をもとに、計画全体の改定案をとりまとめてまいります。最終的にはパブリックコメントを経まして、今年度中に改定する予定です。

本委員会では、ICT教育に係る部分の見直しについてご意見をいただきます。

あくまでも現時点でのICT推進室での改定案であり、今後、検討会議等を進めていく中で変わってくることもあるので、ご承知おきください。

18 ページの右側、A3の資料をご覧ください。こちらに、教育大綱と教育振興基本計画の37の施策の体系図が記載されております。

8つの基本目標と、基本目標を達成するための37施策が位置づけられております。このうち、ICT教育に関わる施策としましては、「1 確かな学力の定着を目指す学び合う学びを基本とした授業の推進」、「3 未来にはばたく人材の育成」、「7 道徳心・社会性の育成」、「12 教職員等の資質や指導力の向上」、「14 将来を見据えた学校施設づくり」の5つの施策です。

それでは、資料4をご覧ください。今申し上げました5つの施策のICT教育に関わる部分について、現時点で事務局が考えました見直し案を見え消し形式で記載しております。本日はこの見直し案について、加筆や修正など、大きな方向性について、委員の皆様よりご意見をいただきたいと思いますと考えております。

それぞれの施策には、現状・課題と具体的な取組みが記載されております。

それでは、順に見直し内容について説明いたします。

まず、施策1、確かな学力の定着を目指す「学び合う学び」を基本とした授業の推進についてです。現状・課題の4つ目に新規で1段落追加いたしました。内容としては、Society5.0時代に向けて、世の中全体のデジタル化、オンライン化が大きく促進されていること、そうした流れのなか、「学び合う学び」とともに「個別最適な学び」を推進する視点から、ICTを最大限活用していくことが求められているということを記載しております。

この追加にあわせ、裏面の具体的な取組みに、情報活用能力の育成を追加しております。

続きまして、施策3、未来にはばたく人材の育成についてです。現状・課題の一番下の段落を修正し、令和2年度に児童生徒1人1台タブレットPCを整備し、授業等で活用していること、また、臨時休校時等において、家庭と学校をつなぎ、学びを保障していくこと、そして、今後は、学習履歴等を活用し、児童生徒一人ひとりの特性等にあった多様な方法で学習を進めつつ、多様な人たちと協働しながら学習を行うため、ICT教育の充実を図っていくことを記載しております。

この修正にあわせて、具体的な取組みには、施策1と同様に、情報活用能力の育成について再掲するとともに、セキュリティを確保しつつ、クラウドサービスや学習履歴等を効果的に活用した学びについて研究・実践を行うことを記載しております。

続きまして、施策7、道徳心・社会性の育成についてです。現在の計画では、施策3と施策7に情報モラルの育成について記載しておりますが、施策7に統合しまして、現状・課題にも新たに1段落追加する案としております。

一番下の段落に記載のとおり、現代は、スマートフォンやSNSなどの情報ツールが普及し、どこでも誰もがインターネットを使って情報発信したり交流したりすることができること、一方で、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪などが大きな社会問題となっていること、こどもたちが情報モラルや情報セキュリティ等に関する知識を身につけるとともに、情報化社会において適切に判断できる力を磨いていく

ことが重要になっていることについて記載しています。

具体的な取組みには、情報モラル教育は学校だけでなく、家庭に協力を仰ぐ必要があることから、文章を修正しております。

続きまして、施策 12、教職員等の資質や指導力の向上についてです。教員には ICT を最大限活用しながら、新たな教育に対応していく力が必要となるため、現状・課題の文章を記載のとおり修正していこうと思います。具体的な取組みには、新たに ICT 支援員の配置について記載いたしました。

最後に、施策 14、将来を見据えた学校施設づくりについてです。現状・課題の一番下の段落には、現在の ICT 環境の整備状況を文章に反映させました。また、具体的な取組みには、今年度、文部科学省で実証事業を進めております、学習者用デジタル教科書についての記載を追記させていただきました。

以上で、教育振興基本計画の見直しについての説明を終わります。

(村松委員長)

非常に多岐にわたる内容について検討されています。それでは、質問やご意見があればお願いします。

(栗木委員)

情報モラルの記載を統合したということですが、情報モラルをとりあげることは絶対にしていかないといけません。家庭にも協力を仰ぐこと、家庭と一緒にやっていくことは必要だと思います。事例で学ぶネットモラルを公開しており、家庭でも見ることができですが、本当に見てもらえるか実効性に不安があります。家庭と学校が協力していける仕組みがあるといいなと思います。

(村松委員長)

情報モラル、セキュリティ関係について家庭との連携は非常に重要という指摘でし

た。教育委員会で具体的な取組みを検討されていますか。

(事務局：塚本主幹)

年度初めにタブレット端末の活用についてQ&Aを記載したリーフレットを家庭に配付しました。これに限らず、今後、現状や最近問題になっていることなどを発信していけたらいいなと考えています。

(松村委員長)

非常に大きな課題なので、各校のアイデア等を用いて具体化していけるといいと思います。重要なポイントのひとつだと思います。

(林委員)

施策1の4つ目で、これからの学校は、「学び合う学び」とともに「個別最適な学び」を推進する視点から、ICTを最大限活用していくと記載されていますが、上から2つ目に、「主体的・対話的で深い学び」や主体的・協働的な学びという記載が出てきます。施策3の5つ目には、多様な人たちと協働しながら学習を行うという記載があります。個別最適な学びを推進する視点という、そこだけ特化しているようなので、協働的な学び等の表現を付け加えた方がいいと思います。

(村松委員長)

他の項目とあわせて、小牧市が大事にしている「学び合う学び」の軸をずらさずに表記を整理できるといいですね。

(梶田副委員長)

「個別最適な学び」について、どう捉えていくのか気になります。文部科学省が言っていることでもあり、これから日本の教育の大きなポイントになってくると思います。

これをどんなふうに捉えて、ICT 活用につなげて行こうと思っているのか説明をお願いしたいです。

(事務局：塚本主幹)

非常に難しい部分ですが、個別化と個性化の2面を捉えていく必要があると思います。特に、ICT の活用という個別化の方に目が向いていくと思いますが、一人ひとりの学びが豊かになっていく道具として学習の個性化という視点からも上手に活用していきたいと思います。教育委員会だけでなく、学校と想いを共有しながら進めていく必要があると考えています。

(村松委員長)

これからを考えるために非常に大事な点で、単純にAIドリルをやったから個別最適化という話ではありません。個々の特性や興味関心を最大限に特化しながら共に学び合っていく必要があります。決して協働の学びと対立するようなものではないと思いますので、文言の整理をお願いします。

(村松委員長)

私から1点よろしいでしょうか。検討していただきのが、施策4の特別支援教育の推進のところですか。今回、特別支援学校だけではなく、通常学級、あるいは特別支援学級、インクルーシブ教育など、多様な子どもたちに対応するためにICTを活用することが非常に効果的です。今までできなかった部分やユニバーサルデザインなどに対応することは課題だと思います。先ほどの「個別最適な学び」に関係するところですので、ご検討をお願いします。

その他、関連したところでいかがでしょうか。

(舟橋委員)

行政改革課の舟橋です。施策12の教職員等の資質や指導力の向上のところで、ICTに関する現状と課題が記載され、それに対応する取組みとして、ICT支援員の配置が記載されていますが、セキュリティについては、教職員の方にも十分に身に付けていただきたい資質なので、そういった取組について記載をしていただきたい。

(村松委員長)

検討していただくということによろしいでしょうか。

(事務局：塚本主幹)

検討します。

(村松委員長)

その他、何かありますか。

(栗木委員)

施策5、外国にルーツを持つ児童生徒への教育の推進のところで、語学相談員の配置等をしていただいているところですが、授業中など、こどもたちに張り付いて翻訳や通訳は難しいです。最近の翻訳ソフトは優秀なので、ICTを有効活用しながら対応していけたらいいと思っています。

(村松委員長)

先ほどのセキュリティに加えて、施策5についても検討していただき、再度、事務局にて見直しを進めていただくということによろしいでしょうか。

～異議なし～

(村松委員長)

本日出しきれなかった意見がある場合は、今月中に事務局の方へお願いします。

それでは、続きまして、次第の4 議事に入ります。議題の2、小牧市学校教育 ICT 推進計画の見直しについて、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原係長)

それでは、小牧市学校教育 ICT 推進計画の見直しについて、説明させていただきます。資料5と別冊2-1をあわせてご覧ください。先ほど、報告でご説明させていただきました、別冊2-1「小牧市学校教育 ICT 推進計画」は、今年度が計画期間の最終年度となりますので、昨年度は、GIGA スクール構想への対応のために、追補した別冊2-2の第6章も含めて、第2次推進計画として見直しを実施します。

資料5の枠内に記載のとおり、具体的な計画の見直し作業は、ICT に詳しい教職員で構成する ICT 検討委員会の議論を踏まえて、計画案を作成しまして、1月下旬に開催予定の本委員会にお諮りいたします。

現在、ICT 検討委員会で見直し項目の洗い出しを行っているところであり、現時点における主な見直し内容について、資料に記載の内容となります。

まず、第1章の策定について、別冊では1ページからになりますが、①計画年度について、議題の1でご説明しました「小牧市教育振興基本計画」とあわせ、令和4年度から8年度の5年間といたします。②国及び県等の最近の動向を踏まえた時点修正を行います。

続いて、第2章の小牧市の現状と課題、別冊では7ページからになりますが、①②の最近の状況を反映するほか、新規項目として、課題として、③のアクセスポイントの増設などのネットワーク環境の整備ですとか、④の資産管理、⑤の教職員の在校時間の把握、⑥児童生徒1人1台端末の次期更新に向けた研究について、追記いたします。

続いて、第3章の基本方針については、まず、20 ページに記載の本計画の目指す姿である「時代を切り拓くこども」の内容を再確認しまして、次に、21ページ以降の文

章中に①～⑩の内容について、追記又は新規追加いたします。

最後に第4章、具体的な取組み、別冊では25ページからですが、計画期間となる令和4年度から8年度 of 取組みに修正するとともに、29ページの指標について見直しを実施いたします。

現時点では、今申し上げた内容の見直しを考えておりますが、今後、ICT検討委員会の議論を踏まえて、具体的な見直し作業を進めていくなかで、精査してまいりたいと考えております。

本日は、これらの主な見直し内容について、ご意見・ご質問をいただきたく、お願いいたします。

(村松委員長)

それでは、ご意見・ご質問等ありましたら、挙手をお願いします。

(高堀委員)

資料5の裏面のクラウドシステムの活用について、どんなふうにもどもたちが活用していくのか気になります。教職員も安全に効果的に活用していくのは自信がありません。今後、どう進めていけるのか悩んでいる部分です。

(村松委員長)

クラウド系の部分は、今回の改定のポイントになる部分です。

私から1点、基本方針の追記の検討をお願いします。後の話や冒頭のアンケートにも関係しますが、保護者・地域の方の理解、啓発、情報発信を積極的にやっていただければいいと思います。保護者の声を見たときに、歓迎する反面、不安に感じている部分もあります。学校の応援団を増やすという意味でも保護者や地域の方への積極的な情報発信、啓発を検討していただけたらと思います。

(水野委員)

今まで計画策定に携わってきて、発展、バージョンアップはあったが、今回、新規項目が多い印象です。これからは予想できないことが多く出てくると感じました。計画を策定して動き始めてから分かることがあると思いますので、走りながら考える柔軟な姿勢が必要だと思いました。

(村松委員長)

大変重要な指摘をいただきました。GIGA スクール構想などは、国も含めて走りながら色々なことを考えて対応している部分が多々あります。柔軟に検討したり修正を加えていくことが大事になります。

それでは、小牧市学校教育 ICT 推進計画については、事務局、ICT 検討委員会で見直しを進めていただくという事によろしいでしょうか。

～異議なし～

(村松委員長)

それでは、次第の5、その他について、事務局から何かありますか。

(事務局：塚本主幹)

ICT 教育につきましては、児童生徒1人1台端末の整備が前倒しとなり、学校のICT環境も大きく変わりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、世の中全体のデジタル化、オンライン化が進んでおり、学校生活においても、オンライン学習、オンライン授業、学習者用デジタル教科書など、ICTの活用について期待が寄せられています。

本日は、せっきくの場ですので、全国のICT状況に知見をお持ちの村松委員長より、いただいた参考資料を中心に、クラウド利用をどうしていくのか、端末活用の日常化

にどうやってつなげていくのか等についてお話いただき、その後、委員間で意見交換ができたと思います。よろしく申し上げます。

(村松委員長)

事務局から話をいただいたので、少し話をさせていただきます。画面を共有します。詳細は、お手元の参考資料をご覧ください。

地元の長野では、県と連携して、4月に県のICT教育推進センターを立ち上げました。小牧市においては、計画を立てるところ、実際に取り組むところを4つの委員会を組み合わせています。まさに同じモデルで、知事、教育長、センター長の私で動き出したところです。ここでのポイントは、今年度、県全体の目標として、こどもたち全員が、クラウドによる「同時共同編集」ができることを掲げました。意見を集約して話し合いをする、共有することもいいが、GIGA スクール構想の大きなところは、同時に意見を書き込んだり、同時にスライドを作成したり、共同での編集が非常に大事だと思います。それをすべてのこどもたちに体験させようということを目指しました。

こどもが主体の内容であることもさることながら、こどもを主語にして目標設定したことが大きいです。それに向けて、なぜ共同編集が必要なのか、これからどうしたらいいのか具体的に市町村と一緒に動き出しています。当然、今日お話しいただいた組織体制、支援体制、利活用などの話も出てきますが、全体の目標がシンプルに設定され、それに向かっていくことは大事だと思います。その中で、最後の話にも関わってきますが、いかに保護者や地域の方々にうまく伝えていくのかが大きなところです。アンケートでも不安に思われている先生方が多いのは確かなので、そういう不安を払拭するためにも、色々な情報が適切に届く仕組みが必要だと思います。そのための取組みをいくつか紹介します。

信州大学の次世代型学び研究開発センターが中心となって GIGA スクール長野県ポータルサイトをつくりました。本日の資料の別冊3の事例集も素晴らしいと思います。先生方からは地元に近い事例が参考になると聞いています。そこで、地元の好事例、

情報・動画を集めたサイトをつくったところ、身近に感じられるということで大変好評でした。小牧市においてもこのような情報のプラットフォームができると非常にいいと思います。

それから、長野県喬木村、1 中学校 2 小学校の規模ですが、とても積極的に取り組んでいます。早い段階から 1 人 1 台端末を整備し、Google のウェブサイトを使って先生向け、保護者・地域住民に向けて通知だとか啓発的なこと、Q & A など色々な情報を発信し、公開しています。心配になったときは、こういうことをやろうとしているので大丈夫ですよとか、名古屋市でニュースになったログの記録のことなど、先生方がやっていることや方針についての情報発信を丁寧に行っていて、保護者や地域の方とコミュニケーションがとれる仕掛けができています。

次に、先生方の不安に対応するため、信州大学が中心になって今年 4 月から月 1 回くらいのペースでお悩み相談室、16 時 30 分から 17 時までの 30 分限定でオンラインにてトーク番組風に困った事例等のある学校から紹介してもらい、それを踏まえて意見をいただくとか、メールマガジンを配信するなどの取り組みをしています。不安を拾い上げて、色んな人たちをつなぐ仕組みをつくっています。先ほどの地域の話もそうですが、情報発信・情報共有をしてつなぐということが端末が行き渡った次の段階では大事になります。奈良市など先進的なところではこの辺りを上手くやっています。小牧市も様々な取り組みが非常にいい形になってきているので、次はこういった事に取り組んでいただけるといいと思います。

先日は、梶田副委員長の大城小の授業にオンラインで参加させていただき、ジャムボードに算数や国語の授業について気が付いたことをメモしてキャプチャーで流しました。複数の先生が同時に書き込んだりとか、実際にその場で見ている先生とオンラインで見ている先生が一緒に書き込むということもやっています。こうすることで授業研究そのものが変わってきます。今までは付箋や模造紙に書き込んでいましたが、こういった方法がリアルタイムで行われるようになります。オンラインで見られなかったところを参観の先生が上手くフォローしたり、色々な方の書き込みを見ながら参

観の先生がここかと新たな視点で見たり、今までにないタイプの授業研究ができます。昨年はオンライン中継で映像を見ていましたが、次のステップではオンラインならではの授業研究ができると思います。例えば、市内で空き時間にお互いに授業参観ができると授業研究が変わってくると感じました。

私からは以上です。梶田副委員長の方で授業研究の補足があればお願いします。

(梶田副委員長)

モデル校、パイオニア校として3年目になり、タブレット PC を活用してという話が出るとうとうタブレット PC を使うことが目的になってしまいます。大事なのは、そういうことではなく、こどもたちの学びが深まるためにどのようにタブレット PC を道具として使うかということです。

今年は、村松委員長にもできるだけ授業を見ていただいて、少しでも深まればと思っていましたが、コロナの状況もあり、村松委員長にはオンラインで授業を見ていただき、我々は学校の中で直接授業を見ていました。感染予防のため、全員が教室に入らず、学年の先生だけ入り、その他の先生は別の教室から授業を見て授業研究を進めてきました。

村松委員長に見ていただいたのは今回で2回目です。1回目は、全く音声聞き取れず、授業内容が分からず、こどもが一生懸命やっている映像を見て雰囲気を感じるだけでした。こどもが何を学んでいるのか、何を考えているのか全く分からず、こどもたちが発する声は非常に大事だということが分かりました。

2回目は、外付けのマイクフォンを使用して少し聞こえるようになりました。ただ、機材を準備する負荷は大きいです。利点としては、授業を配信しながら録画できますので、チームに入ればいつでも振り返って見ることができることです。そういったところで活用を広げていけるといいと思っています。もう少ししましたら、こんなことをすると、学校の授業研究が深まっていきますと皆さんに提案ができると思います。

(村松委員長)

ありがとうございました。予定されていた議事は終わりました。その他、事務局から何かありますか。

(事務局：櫻井室長)

第2回委員会につきましては、1月下旬を予定しておりますが、具体的な日程については、後日、日程調整させていただき、決定させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(村松委員長)

ありがとうございました。それでは、他にないようでありますので、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局：櫻井室長)

本日、委員の皆様におかれましては、長時間にわたるご審議、また、円滑な進行に対してご協力をいただき、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第1回を閉会させていただきます。